

gendai.ismedia.jp

島耕作はついに「社外取締役」へ…50年以上勤めた会社を去っても、まだまだ働く理由 (弘兼 憲史) @gendai_biz

弘兼 憲史



著者・弘兼憲史氏に今後の展開を聞いた

――確かに。団塊の世代の勢いや華やかさを感じながら読んでいました。

よくそう言われるんですよ。団塊の世代は時代を動かしてきたような扱い方をされる。でも、実は当人たちはそんなことは思っていないんです。

団塊の世代の男子の大学進学率は20%前後で、女子はもっと低い。世に言う全共闘世代の中心でもあると言われますが、学生運動をしていたのなんておそらく全体の数%でしょう。中枢で経済を引っ張ってきたのはごく少数のいわゆる“勝ち組”で、ほとんどは中学高校を卒業して家業を継いだり、集団就職をしたりして普通に暮らしている。

しかもベビーブーマーで常に競争を強いられていたから、結束力があるわけでもありません。僕自身も団塊の世代として、イメージが独り歩きしているように感じる。

ただ、人口が多いからマーケットが自分たちとリンクしてきた、というのはありますね。自分たちが成長していく時は日本も高度経済成長期で拡大したし、40代、50代になって少し体力が落ちたなって頃に経済も衰え始めた。そして年を重ねるごとに社会はなだらかな下り坂を進んでいる。



著者の弘兼憲史氏／撮影・西崎進也

――その下り坂を島耕作はどう生きていくのでしょうか。

彼は勝ち組中の勝ち組で経済人ですから、次世代のためにも衰退を何とか食い止めたいと考えています。だから、これからも問題を抱える業界にいたり、元気な人の活躍を支えたりしていくで

しょう。

あとはゴルフですね。僕もゴルフは生涯スポーツとして楽しんでいるけれど、島耕作にとっては社交や戦略会議の重要な場だし、何より元気の秘訣。まだまだワーク・エンゲージメント高めに最後の青春を歩んでいきますよ。

取材・文／中川明紀

©弘兼憲史／講談社